

香川大学教育学部

附属教育実践総合センターニュース

No. 2 4

平成18年8月4日発行

目 次

特集 平成18年度教育実践総合 センター事業について ----- 1	附属坂出中学校研究発表会報告 ----- 5
センター事業計画 ----- 2	教育実践集中講座 ----- 6
研究プロジェクトについて ----- 3	退任・着任の挨拶 ----- 7
附属坂出小学校教育研究発表会報告 ---- 4	寄贈図書 ----- 8~10
	活動日誌・お知らせ ----- 10~12

特 集 平成18年度教育実践総合センター事業について

附属教育実践総合センター長 西原 浩

7月に開催された管理委員会で、平成18年度のセンター事業計画が認められました。センター事業の主要な1つの柱である研究プロジェクトは、2年目を迎える「教師教育の在り方に関する研究プロジェクト」、「香川県における道徳教育の充実に関する研究プロジェクト」、「社会的スキルに関する研究プロジェクト」と今度新たに開始する「情報教育に関する研究プロジェクト」の4件で実施することになりました。「教師教育の在り方に関する研究プロジェクト」は昨年に引き続き、香川県教育センターとの共同研究として、「香川県における道徳教育の充実に関する研究プロジェクト」は香川県教育委員会との連携の下で実施されることになりました。各プロジェクトの概要は本センターニュースの3頁に示されています。いずれのプロジェクトも教員養成・研修や教育実践、教育臨床に関わって重要な課題であります。学部、附属学校、県教育委員会、県教育センター、公立学校の先生方の協力を得て進めて参りたいと存じますので、よろしくお願ひします。また今日的な教育課題と関わって、適宜公開講演会やセンター研究会を開催することにしておりますので、先生方のご参加を宜しくお願ひします。

本年度は客員教員（客員教授）として、高松市立桜町中学校教頭の小柳和代先生と香川県教育委員会義務教育課主任指導主事の白井隆先生に就任していただいております。すでに6月に第1回教育実践集中講座を担当していただきました。学校生活の様々な場面における教師の対応など、具体的な指導法に関わる講座は教員を目指す学生にとって極めて有意義なものになると思われまます。

昨年度の小学校教科書・指導書に引き続き、今年度は中学校の教科書・指導書を購入しました。先生方におかれましては、関係の学生に周知していただき、いろいろと活用していただきたいと思いますので、宜しくお願ひします。

今年4月より、教育工学・情報教育の専任教員として、松下幸司講師が赴任しました。また事務補佐員として宮内キヨミさんがまいりました。前任者同様、宜しくお願ひします。

平成18年度 教育実践総合センター事業計画

I 研究プロジェクト

1. 教師教育の在り方に関する研究プロジェクト
2. 香川県における道徳教育の充実に関する研究プロジェクト
3. 社会的スキルに関する研究プロジェクト
4. 情報教育に関する研究プロジェクト

II 指導プロジェクト

1. 教員養成
 - (1) 「教育実践演習」「臨床援助の実際」「教育実践基礎演習（フレンドシップ事業）」の担当
 - (2) 教育実践集中講座
 - (3) 情報教育関連の授業開講
・教育工学 ・情報メディアの活用
 - (4) 教養教育「教育について考えよう」
2. 教員研修
 - (1) SCS利用研究及び遠隔共同講義への参加
「授業実践研究・教師教育」「情報とメディア研究」「教育臨床」
 - (2) マルチメディア研究会の開催
 - (3) 軽度発達障害研究会の開催
 - (4) 予防的教育相談研究会の開催
3. 教育相談
 - (1) 教師のための相談活動（学習指導、生徒指導等）
 - (2) 教育相談活動

III 教材・資料の収集・管理・共同利用

1. 研究資料（他大学からの研究紀要等及び香川県教育委員会関連出版物）、教材（教科書及び指導書）等の収集・管理
2. 教材、機器等の共同利用のための物品などの整備
3. 遠隔教育システムの有効利用のための整備
4. 学習コンテンツの収集

IV 研究活動の報告等

1. 「香川大学教育実践総合研究」の編集
2. 教育実践集中講座ノートの発行
3. フレンドシップ事業報告書の発行

V 広報活動

1. インターネットのサイト（ホームページ）の更新・管理
2. センターニュース（年3回程度）
3. 教師教育用映像情報のVOD配信サービス
4. パンフレット・リーフレットの改訂・発行

VI 講演会・研究会等の開催

1. 公開講演会
2. 教育実践総合センター研究会
3. その他

VII 関係機関との連携

1. 研究・指導プロジェクトに関わる関係機関との連携
2. その他地域の各機関との連携
 - ・香川県教育委員会教員研修への協力
 - ・香川県教育センター及び高松市教育文化研究所への研究協力

平成18年度 研究プロジェクト

教師教育の在り方に関する研究プロジェクト

田上 哲（教育実践総合センター）

教員養成そのものの問題に加えて、県教委と連携した教員研修や教職大学院の設置問題等、これからの教師教育をめぐって教育学部が検討し取り組んでいかねばならない問題が山積みしている。昨年度に実施した香川大学研修（香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携事業の一環として、教職10年経験者研修の一部について昨年度と今年度試行的に実施される）を対象とした教員研修に関する研究を継続するとともに、今年度から新しい試みを展開している教育実習事前事後指導に焦点を当てた教員養成カリキュラムに関する研究を実施する。

香川県における道徳教育の充実に関する研究プロジェクト

七條正典（教育実践総合センター）

香川県教育委員会ならびに香川県教育センターとの連携の下、香川県の児童生徒の道徳性に関する調査や道徳教育の充実のためのプランづくり等について、共同研究を行っている。

本年度は調査の結果をもとに分析考察を行い、今後の道徳教育の充実に向けた方策についての提言をまとめたいと考えている。

社会的スキルに関する研究プロジェクト

宮前義和（教育実践総合センター）

今年は、昨年度を受けて、1）治療的に社会的スキルをとりあげる場合（例、教育実践総合センター教育相談室活動の中で社会的スキルをとりあげる）、2）直接社会的スキルをとりあげてはいないが、実践の一部で社会的スキルをとりあげている場合（例、ピア・サポート）、3）予防的に社会的スキルをとりあげる場合（例、学級における集団社会的スキル訓練）等社会的スキルを広くとらえ、教育において社会的スキルをとりあげる意味を、あまり焦点をしぼらずに、できるだけ多くの学部教員、附属学校園教員と話し合い、考察していきたいと思う。

情報教育に関する研究プロジェクト

松下幸司（教育実践総合センター）

情報メディアを活用した教育実践事例の収集・参与観察等から得たデータについて、(a)教育実践における情報メディア活用の形態、(b)情報メディアを活用することにおける「学習のねらい」「育てたい子ども像」等について整理分析を行う。なお、本研究においては、「総合的な学習の時間」のうちの【情報】を扱う教育実践や、中学校技術科の【情報領域】にとどまらず、各教科・各領域における情報メディアの活用事例、ならびに、情報活用能力・メディア活用能力等の伸長を図る教育実践事例を、広く研究対象とする。この調査研究の成果を現場に還元していくことによって、より多くの教職員に対し、高度情報化社会への対応という今日的課題をふまえた、情報教育推進の日常化ならびに意識化を図ろうとするものである。

第90回 附属坂出小学校教育研究発表会

香川大学教育学部附属坂出小学校

5月25日・26日に開催された第90回教育研究発表会は、県内外から2日間で延べ90名もの参会者をお迎えし、盛会裏に終えることができました。

今回の研究発表会では、『「思考力」をはぐくむ学びの創造 -脳科学研究との連携、授業力を高める校内研修-』を研究主題に掲げ、「①これまで教師が蓄積してきた経験や勘による教育実践を、脳のメカニズムから捉え直してみること」「②授業者だけでなく、参観者も自らの授業力を高めていくことができる校内研修の在り方を探ること」という2つの視点からの取り組みについて、提案しました。

①については、朝のドリル学習による脳のウォーミングアップだけでなく、学校生活の大半を占める授業づくりに脳科学研究の知見を関連付けながら、教材や支援の有効性を提案しました。

②については、昨年から様々な事前研、事後研のモデルを試行し、それぞれのよさを取り入れた事前研モデル「附坂小授業クリエイティング」、事後研モデル「附坂小授業リフレクション」を提案し、研究会当日の研究協議会は、全て「附坂小授業リフレクション」で進行しました。

特に、「附坂小授業リフレクション」のような付箋紙やフリーカードを用いた参加型の事後研は、香川県下の小学校の現職教育にも浸透しつつあるようです。

また、1日目の午後は鳴門教育大学の村川雅弘先生をコーディネーターに、東京大学の秋田喜代美先生、国立精神・神経センター神経研究所部長中村克樹先生をゲストとしてお招きし、本校研究部長の森山を交えて『脳科学と教育、その連携の可能性』をテーマに、シンポジウムを2日目の午後は、東北大学加齢医学研究所教授川島隆太先生に「脳を知り、脳を育む」という演題でご講演をいただきました。

今後は、授業づくりと脳科学研究との連携をさらに深めていくとともに、授業研究における私たち教師と研究者との望ましい関係についても、考えていきたいと思っています。



<公開授業（音楽）>



<授業リフレクション（理科）>

研究発表会に際してのご指導、ご協力に対して深く感謝申し上げます。

「生きること」と「学ぶこと」の統合をめざして

香川大学教育学部附属坂出中学校

本校では学校教育目標「広い視野をもった個性豊かな生徒の育成」のもと、生涯にわたって学び続ける意欲やその基礎となる「生きる力」の育成を従前から研究の中心に据え、実践研究を蓄積してきた。今期は、「『生きること』と『学ぶこと』の統合」を研究のキーワードに掲げ、教科、道徳、特別活動等の教育活動全般を融和させたカリキュラム構造を構築すること、また、学びの意味や価値を見出させる学習構造の在り方を追究することによって、生徒一人一人が主体的に知識・経験を獲得し、統合し得る「豊かな学びを育むトータルカリキュラム」を目指した。そして、本校の研究チームとして、前者を「ユニット化」、後者を「学びの意味化」とし、研究実践を推進している。

(1) ユニット化

本校の五大大行事「校外学習（歩く日・宿泊学習・修学旅行）、平和学習、運動会、文化祭、送別芸能祭」のそれぞれに関連した教科や道徳の内容を本校のめざす生徒像から設定した共通のテーマでリンクさせたり、各学年の発達段階や重点的なねらいに応じて各領域を結びつけたりした。例えば、第1学年のユニット化では、仲間づくりが大きな関心事である入学当初に「人とのかかわり」といったテーマを設定し、よりよい集団や仲間について考えさせる教科、道徳、学活の授業、あるいは行事「歩く日」をリンクさせている。このように各学年の課題やめざす生徒像から共通テーマを設定し、教科、道徳、特別活動を関連させたユニットを構成することによって、目的意識を明確にもって学ぶ生徒の姿が数多く見られるようになった。

(2) 学びの意味化

教科の学びで身に付けた、知識・技能、体力、合理的な思考、判断、芽生えた心情、態度などが、どれほど価値あるものかに気付かせる授業を「学びの意味化」とし、各教科がそれぞれ開発している。さらに、より効率的に学びの意味を実感させる手だてとして、各教科におけるこれまでの学びが、生徒にとってどのように認知されていたのかを分析するとともに、その状況を「感覚理解」「関係理解」「概念理解」といった3つの認知段階に分類・整理し、その結果を単元構造に当てはめた「学びの意味化を促す学習構造」を追究している。

以上、主として2つの研究を通して、豊かな学びを育むトータルカリキュラムをめざしてきたが、今後は、これらの成果や課題を生かして文科省より指定を受けた研究開発へとシフトさせていきたい。



平成18年度 第1回教育実践集中講座

附属教育実践総合センター客員教授 小柳 和代

集中講座を1年ぶりに担当することになりました。この講座を通して、教育学部の学生の皆さんが少しでも教職という仕事の楽しさや、やりがいを感じ、一人でも多くの方に「絶対に教員になりたい。」という気持ちを持ってもらいたいという思いで、今年の講座をスタートしました。

第1回の6月期は「学級担任の四季」というテーマのもと、演習や事例研究を中心に講義を進めてきました。教育実習等とも重なり、毎回出席者は10名から20名でしたが、この講座に自ら進んで参加される学生の皆さんの表情は、いつも真剣で充実感に満ちあふれています。例えば、第1回の「春～いよいよ学級のスタート！～」では、演習として一人ひとりが、学級担任が初めて自分のクラスで児童生徒を迎え、学級開きをする際の自己紹介と担任として大切にしていきたいクラスのスローガンを3分程度で発表しました。また第3回の「冬～教師が変わると、子どもが変わるって本当？～」では、いくつかの事例研究に取り組みました。例えば「授業中、些細なことで女子生徒二人と口論になったAくんは急に激怒し、目の前に置いていたハサミを投げつけました。クラスの生徒はシーン。Aくんは目を真っ赤にして泣いています。さて、もしあなたが担任ならばどうしますか。今日中にしなければいけない事、長期的なスパンで担任として取り組むべき事に分けて、今から10分で考えてください。」・・・与えられた事例に対し真剣に自分の考えをまとめる学生。その後ペアで、そして全体で積極的に意見交換を行う学生。いつも彼らは、実にまじめに生き生きと課題に取り組んでいます。20年余り中学校の教員をしている私自身が時折ハッとさせられる意見も出てきます。

最近では、教員採用試験において個人面接のみならずグループ面接や模擬授業を課する県も多くなっています。短い時間で自分の考えをまとめ、いかにその考えを効果的に人に伝えるか、これも重要な要素となっています。昨年10月に中教審から出された「新しい義務教育を創造する」の答申では「人間力」がキーワードになっています。教師には、子どもたちの人格形成に関わるものとして豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質を備えていることが求められています。そういった資質の向上に少しでもお役に立てればと思っています。

企画推進委員退任の挨拶

企画推進委員退任にあたって

社会科教育 松本 康

昨年度まで企画推進委員を仰せつかっていましたが、社会科講座内のローテーションで、別の仕事が回ってきたため、今回は企画委員を一回休みとなりました。センターにどんな貢献をしたのかと考えると、はなはだ心許ない思いです。一昨年は内地留学で半年おりませんでしたし、昨年は別の仕事に注力していましたので、センタープロジェクトにも参加できていませんでした。会議に参加した以外はあまり積極的な貢献はできていなかったようで反省しています。また次のローテーションでは戻る事になると思います。センターと縁が切れるわけではありませんので、今後ともよろしくお願ひします。

企画推進委員着任の挨拶

「現場」に魅せられて

社会科教育 伊藤 裕康

駆け出し教師時代のことである。新聞を読んでいて、教育関係の記事にあった学校現場という言葉に目がとまった。その時は、「学校は建築現場とは違う、現場という言葉はそぐわない」と強く反発を覚えた。今では、「教師教育の現場では…」と、しばしば「現場」いう言葉を好んで使う。「現場」いう言葉に愛着と誇りを持つようになった。

「現場」では、子どもと教員が一瞬一瞬の時を紡ぎ、出来事を織りなしている。事件が起きているのは、正しく「現場」であり、事を成すのも「現場」である。教育は実践してなんぼの世界。どんなに高邁なことを述べても、実をむすばなかったら虚しい。学内で学校「現場」との距離が近く、教師教育の「現場」を主に担うのも香川大学教育学部附属教育実践センターである。同センターに関わらせていただくこととなった。よろしくお願ひいたします。

附属教育実践総合センター講師の挨拶

子どもたちの「今・ここ」を見つめ、教育の「これから」を考えたい

附属教育実践総合センター 講師 松下 幸司

4月より教育実践研究部門 講師として着任いたしました。専門領域は教育工学（教育実践研究・情報教育）です。前任校における教育／研究活動から一貫して、教育実践現場で日々行われている教育活動と、そこにおける子どもたちの学習・生活の実際を見つめ捉えることを出発点として、〔学習環境〕〔学習意欲〕などに焦点を当て、教育実践研究を重ねてまいりました。香川大学に着任いたしました今、子どもたちが育ち、学習者をとりにくく教育文化が醸成されている〔地域〕の特性・風土・教材性なども視野に入れながら、教育実践現場・研究機関と連携し、「今・ここ」と「これから」の教育の姿・学びの可能性について考えてまいりたいと、意欲を新たにしております。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

附属教育実践総合センター事務補佐員の挨拶

ごあいさつ

附属教育実践総合センター事務補佐員 宮内 キヨミ

4月1日より非常勤職員として、3年ぶりにまたセンターでお手伝いさせて頂くことになりました。学務部で1年、高松高専学生課で2年間勤務しました。この3年間色々な仕事をさせて頂いたことは私にとって大変良い勉強になりました。センターでの以前の経験や他の部署での経験を生かして、一所懸命お手伝いをさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

寄贈図書(06/04~06/07)

- 学校教育実践学研究 第11巻 広島大学大学院教育研究科附属教育実践総合センター
ゆかいな土曜日 実施報告書 広島大学教育学部フレンドシップ事業実行委員会
- 富山大学教育実践総合センター紀要 第6号 富山大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践研究紀要 第5号 京都教育大学附属教育実践総合センター
- 研究紀要 第18号 新潟大学教育人間科学部附属教育実践研究指導センター
研究紀要 第19号 新潟大学教育人間科学部附属教育実践研究指導センター
研究紀要 第20号 新潟大学教育人間科学部附属教育実践研究指導センター
- 大学一年次生を対象とする教育実習カリキュラムの研究開発
新潟大学教育人間科学部附属教育実践研究指導センター教育実習研究会
教育実習カリキュラムによる教職意識の形成・発達過程
新潟大学教育人間科学部附属教育実践研究指導センター教育実習研究会
- "The 4th Seminar-Workshop of the 7th Programming Cycle of APEID
Activities Seminar-Workshop on Lifelong Learning and Information Literacy" 東京学芸大学
年次報告(第17号) 上越教育大学実技教育研究指導センター
- ネットワーク 2004年 第7号 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター
- 福井大学教育実践研究 第30号 福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター
教育実践研究 第5号 大阪教育大学教育実践総合センター
教育実践研究紀要 第15巻 鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター
- 教育実践学研究 No.10 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター
教育実践研究 No.6 信州大学教育学部附属教育実践総合センター
教育臨床事例研究 第5号 福島大学総合教育研究センター
- 教員養成プログラム初期に体験活動を履修した学生の教育実習後の態度変容
研究者代表 羽賀敏雄(弘前大学教育学部教授)
- 東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要 第2集 東京学芸大学教育実践研究支援センター
- 鳴門教育大学学校教育研究紀要 No.20 鳴門教育大学地域連携センター
メディア教育研究 2006 Vol.2 No.2 メディア教育開発センター
- NIME International Symposium 2005 Report National Institute of Multimedia Education
- 広島国際大学心理臨床センター紀要 第4号 広島国際大学心理臨床センター
ネットワーク 第8号 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター
研究員紀要 第4号(通号第14号) 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
- 教職・教育実践研究 第1号 山形大学教職研究総合センター
- 平成17年度弘前大学教育学部フレンドシップ事業報告書ー子どもとのふれあいから学ぶー
弘前大学教育学部
- eラーニング等のITを活用した教育に関する調査報告書(2005年度版)
メディア教育開発センター
- 教育実践総合センター公開シンポジウム報告書「子どもたちの可能性を引き出し教育とは」
福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター
- 教育実践研究 第20号 高知大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センター研究紀要 第15号 奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター

静岡大学教育実践総合センター紀要 No.12 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター
 千葉大学教育実践研究 第13号 千葉大学教育学部附属教育実践総合センター
 わが国における子どもの「いじめ」に関する文献集録-1979年～2004年-

教育実践総合センター紀要 第6巻 岡山大学教育学部附属教育実践総合センター
 教師教育研究 第2号 長崎大学教育学部附属教育実践総合センター
 研究紀要 第21号 山口大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育実践総合センターレポート 第25号 大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
 教育実践総合センター紀要 No. 23 大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
 教育実践研究 第23号 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
 第11回研究シンポジウム報告書 教員の資質・能力の向上をめざす教員養成への期待
 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
 平成17年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業実施・成果報告書
 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター

教育実践総合センター紀要 第7号 北海道教育大学附属教育実践総合センター
 学校教育総合研究センター年報 第5号 上越教育大学学校教育総合研究センター
 平成17年度客員研究員研究報告 上越教育大学学校教育総合研究センター
 教育実践総合センター紀要 第9号 愛知教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育臨床事例研究 14 愛知教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育臨床事例研究 15 愛知教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 心理臨床事例研究 第2号 愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター

中等教育研究紀要 第52号 広島大学付属中・高等学校
 中等教育研究開発室年報 第19号 広島大学付属中・高等学校中等教育研究開発室
 へき地・複式教育実習のとりくみ 和歌山大学教育学部教育実習委員会・附属教育実践総合センター
 実技教育研究 第20号 兵庫教育大学実技教育研究指導センター
 生涯教育総合センター研究紀要 第2巻 鳥取大学生涯教育総合センター
 研究紀要-学校改革入門- 第2号 香川県立志度高等学校
 佐賀大学教育実践研究 第22号 佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター
 教育実践研究 第14号 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 ファルティ・ティ・アップメント研究報告書 教員養成大学としての教育のあり方(7) 第1分冊
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター

教育実践ハンドブック-教育実習の手引き- [改訂]
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター

教育実践総合センター「実践報告」No.39 教育実践公開シンポジウム 虐待をいかにくいとめるか?
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育実践総合センター「実践報告」No.40 市民講座「子育てを科学する」
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター

教育実践総合センター「実践報告」No.41 人権・同和教育研究・実践部門
 国際地域連携・社会貢献 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育実践総合センター「実践報告」No.42 教育実践シンポジウム 教師という職業
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター

教育実践総合センター「実践報告」No.43 教育実践講演会 「授業崩壊に教師はどう対処すべきか」
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター

教育実践総合センター「実践報告」No.44 FD講演会「新課程高校生の現状と課題」
 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター

- 心理相談研究紀要 第4号 神戸親和女子大学心理・教育相談室
 教育方法学研究 第31巻 日本教育方法学会
 教育実践研究紀要 第49号 福島大学総合教育研究センター
 カリキュラム研究 第15号 日本カリキュラム学会
 岐阜大学カリキュラム開発研究 Vol.22 No.1 岐阜大学総合情報メディアセンター
 岐阜大学カリキュラム開発研究 Vol.23 No.1 岐阜大学総合情報メディアセンター
 岐阜大学カリキュラム開発研究 Vol.23 No.2 岐阜大学総合情報メディアセンター
 学部・附属教育実践研究紀要 第5号 山口大学教育学部附属教育実践総合センター
 教育臨床学研究 7 愛知教育大学教育実践総合センター 心理学教育相談室
 教育実践研究紀要 第6号 京都教育大学附属教育実践総合センター
 教育実践総合センター紀要 No.5 2006 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
 幼小中の連携教育による児童生徒の問題行動の抑制に関する教育臨床学的研究
 お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター・酒井 朗
 群馬大学教育実践研究 第23号 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター
 日系南米人児童生徒の在籍に対応するための教育実習試行の記録
 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター

【センター活動報告 (06/04~06/07)】

- 4月7日(金)第1回フレンドシップ実施専門委員会
 4月7日(金)第1回専任会議
 4月26日(水)第2回専任会議
 4月26日(水)フレンドシップオリエンテーション
 5月9日(火)第3回専任会議
 5月10日(水)フレンドシップ事前研修
 5月16日(火)第4回専任会議
 5月19日(金)第1回企画推進委員会
 5月31日(水)フレンドシップ班分け
 5月31日(水)教育実践集中講座(6月期1回目)
 6月3日(土)~4日(日)フレンドシップ野外教育体験活動(五色台少年自然の家)
 6月7日(水)教育実践集中講座(6月期2回目)
 6月8日(木)~9日(金)フレンドシップ野外教育体験活動(屋島少年自然の家)
 6月14日(水)教育実践集中講座(6月期3回目)
 6月16日(金)第1回編集会議
 6月21日(水)教育実践集中講座(6月期4回目)
 6月23日(金)第2回編集会議
 6月27日(火)第5回専任会議
 7月4日(火)第2回企画推進委員会
 7月5日(水)第2回フレンドシップ実施専門委員会
 7月12日(水)第1回管理委員会
 7月13日(木)第6回専任会議
 7月17日(月)~19日(水)フレンドシップ野外教育体験活動(国立室戸少年自然の家)

【センターからのお知らせ】

教科書・指導書（中学校）

昨年度の小学校に引き続き、今年度は中学校の教科書・指導書を全教科購入致しました。

先生方におかれましては、関係の学生に周知していただき、いろいろと活用していただきたいと思っていますので宜しくお願い致します。

（貸出はしておりませんので実践総合センター事務室にて見て頂くこととなります。）



貸出物品について

ご利用希望の方は、事前に実践総合センター事務室までお申し込み下さい。

- ・プロジェクター（スクリーン付）
- ・デジタルカメラ
- ・ICレコーダー
- ・OHP
- ・デジタルビデオカメラ、8^ミビデオカメラ（三脚、バッテリー）
- ・ノートパソコン

利用できるもの

- ・裁断機
- ・製本機
- ・紙折り機
- ・ビデオ機器

平成18年度研究プロジェクトの参加募集

教育実践総合センターの平成18年度事業計画が確定し、研究プロジェクトを下記の4テーマとして企画推進することになりました。いずれの研究プロジェクトも、教員養成や教師教育、学校教育にとって基本的なテーマが設定されています。3頁にて、各研究プロジェクトの概要を紹介しております。

学部・附属学校園の先生方には、いずれかのプロジェクトに積極的にご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。ご参加いただける先生方には、8月25日（金）までにセンターのメールボックスに申込書（8月2日に配布しております）をご提出下さいますよう、お願いいたします。

- 1 教師教育の在り方に関する研究プロジェクト
- 2 香川県における道徳教育の充実に関する研究プロジェクト
- 3 社会的スキルに関する研究プロジェクト
- 4 情報教育に関する研究プロジェクト

教育実践総合研究第14号原稿募集

『香川大学教育実践総合研究』第14号は、11月30日(木)原稿受付締切です。以下の投稿要領を参考に、奮ってご投稿ください。

香川大学教育実践総合研究投稿要領

1 (投稿の要領)

香川大学教育実践総合研究(以下「教育実践総合研究」という。)への投稿については、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、この要領の定めるところによる

2 (投稿の内容)

教育実践総合研究は、教科教育、教育臨床など広く教育実践に関する独創的な研究論文・実践報告、資料(研究ノート、研究動向の紹介など)及び香川大学教育学部附属教育実践総合センターの活動報告などを掲載する。

3 (投稿者)

教育実践総合研究に投稿できる者は、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、香川大学教育実践総合研究編集会議(以下、「会議」という。)が特に依頼した者とする。

4 (投稿原稿の提出方法)

投稿原稿は、完成原稿とし、原則としてワープロで作成し、ワープロ打ち出し原稿2部と、原稿を保存したフロッピーディスク等を会議に提出する。

5 (投稿原稿の長さ)

投稿原稿の長さは、刷り上がり14頁(1頁は21字×42行×2段)以内を原則とし、偶数頁になることが望ましい。超過する場合は、会議の議を経て認めることがある。

6 (刷り上がり1頁目の形式)

刷り上がり1頁目は、和・英文のタイトル・著者名・所属(所在地)、和文要旨(200字)及びキーワード(5語)を含むものとする。

7 (投稿原稿の取り扱い)

投稿された論文等は、会議において査読を行い、その取り扱いを次のいずれかに決定する。(1)採録 (2)条件つき採録 (3)返戻

8 (校正)

校正は原則として3校までとし、投稿者において速やかに行うものとする。その際、印刷上の誤り以外の訂正、挿入、削除は原則として認めない。

附則

本要領は、平成元年5月17日から施行し、平成元年4月1日から適用する。

附則

本要領は、平成12年3月6日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附則

本要領は、平成17年12月14日から施行し、平成17年11月9日から適用する。

香川大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

No. 24

発行日：平成18年8月4日

編集発行：香川大学教育学部附属教育実践総合センター 代表者 西原 浩

URL <http://edu-center.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/> E-mail : jcen@ed.kagawa-u.ac.jp

[〒760-8522 高松市幸町1-1 Tel. 087-832-1683 Fax. 087-832-1689]